



eライブラリで自らの課題を発見 ～テスト前、テストに向き合う時間を確保～

依田窪南部中学校では毎日10分間の「自学タイム」を設け、「生活ノート」に1日の振り返りや帰宅後の過ごし方などを書く時間を取っています。テスト前にはそれが30分間の「拡大自学タイム」となり、生徒たちは、教室での自習、先生への質問、eライブラリを使った学習など時間の使い方を自分で選ぶことができます。

学習方法を自ら選び、自由に行き来できる時間



▲ 教室では自習や、友達同士で教え合い

▲ 多目的ホールでは、先生へ質問できる

▲ パソコン教室ではeライブラリで学習

「拡大自学タイム」には、テスト前に**学習意欲を高める場、質問できる場を提供したい**という先生たちのねらいがあります。以前はeライブラリを含めた運用ではありませんでしたが、先生たちは**生徒自身で学習方法を選んでよい「拡大自学タイム」の選択肢を増やしたい**と、eライブラリも取り入れることに決めました。

広いテスト範囲をeライブラリでカバー

短時間でたくさんの問題を解き、単元ごとに理解度が把握できるeライブラリのドリルは、期末テストの広範囲な復習に適しています。特に3年生は、3年1学期の学習内容だけでなく、1年の全範囲も含まれるため、テスト対策が大変です。パソコン教室には多くの3年生が集まり、1年の学習内容の復習に取り組んでいました。

テスト範囲のプリントを見せながら先生は教材選びのアドバイス ▶



インタビュー 効果を感じ、家庭学習にも目を向けてほしい

本校ではこれまでも、テスト前の授業1コマのうち半分を教科書・ノート等で、半分をeライブラリでというふうに、テスト対策の時間に充てている教員がいました。紙とは一味違った感覚で、生徒が飽きずに勉強できる点がよく、それもeライブラリを「拡大自学タイム」に取り入れようと考えた決め手のひとつです。

終了後、「1年の理科の問題をやってみたら、自分で思っていた以上に解けなかった。家に帰ってからもっとやる！」と話しながら帰っていく3年の生徒がいましたが、そこに気づいたことは収穫です。学校で機会を作って使い慣れ、自宅でもちよっとした時間でよいから、eライブラリで学習する習慣をつけてくれればと考えています。



情報担当(技術科)
矢嶋 俊樹 先生

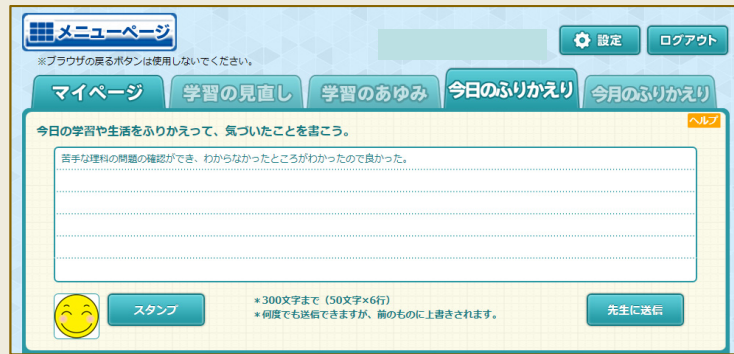
eライブラリで得た気づき

パソコン教室にいた生徒にeライブラリで学習した感想を書いてもらいました。



▲ 毎日「生活ノート」を書いているので、生徒は自分の思いを言語化することが得意です

● eライブラリの「今日のふりかえり」



※「eライブラリ」ログイン→「ふりかえり」→「先生に送信」

【生徒の感想】

- 自分のできるところと、できないところを確認することができた。
- 今回できなかったところは、家に帰ってから復習したいです。
- 数学の、計算が大変なところを理解できるまで復習できたので、よい機会になったと思う。
- やってみてすごくテストが心配になった。家に帰ったらテスト勉強をする。
- 理科をもっと復習したほうがよいと思いました。

eライブラリを取り入れたねらい

- さまざまな生徒に対し、「拡大自学タイム」の時間の使い方の選択肢を広げる。
⇒質問をするよりも問題練習をたくさんしたい生徒。
⇒先生や友達に質問することに抵抗感をもつ生徒。
⇒自分のつまずきに気づいておらず、質問したいことがわからない生徒。

先生の工夫

- 「拡大自学タイム」の30分間を有効に使うため、生徒のパスワード忘れにすぐ対応できるよう、生徒のアカウント一覧を準備しておく。
- 教材選びで迷わず学習に集中できるよう、テスト範囲のプリントを手元に置いておく。

インタビュー 自学タイムの意義と今後のeライブラリの活用

自宅での過ごし方の見通しを立ててから帰宅すること、日頃の教科学習でわからないことを先生に質問すること。これらのことを、全ての生徒が各自でできるとは限りません。そこで本校では、全員一斉参加のまとまった時間を確保しており、それが毎日の「自学タイム」とテスト前の「拡大自学タイム」です。一方で、質問よりも自分のペースで学習することが向いている生徒もいますから、「拡大自学タイム」にeライブラリを取り入れたことで、時間の活用の仕方は大幅に広がりました。

また、自分のペースで学習できるという点では、今後、家庭での利用もさらに促進したいと考えています。同時に、家庭で学習し、生徒が自分のつまずきを発見できたときに教員がサポートする体制を、整えたいと考えています。



校長
原澤 利明 先生